

e-ビーフNEWS 北の牧場から

February 2025

十勝は ずーっと積雪ゼロ

ところがところが、お天道様は、帳尻をうまく合わせ、本日2/4歴史的な大雪129cmが降りました。まだ降ってます。ここのところ天気予報が当たらずほとんど降雪がないなかでの大逆転。いっぺんに来なくてもいいのではないかと愚痴っています。朝から除雪し公道まで出てもそこはまだ除雪車来ていないので進みようがありません。牧場は、近くに住んでいる社員に一人。頑張ってくれと祈るばかりです。この後の予報は、降雪無くても寒さが一段と増し、例年通りに。立春過ぎててもまだまだ先か？

牛は順調そのまま。ここのところの暖気でのんびり日向ぼっこしています。伸びきった冬毛が落ちてくるのも間もなくです。



活動のお知らせ

総会・次期シンポジウムに向けて、情報集約中

NEWSばか読み

- 国交省 道の駅を拠点にまちづくり推進一元窓口設置
1/6: 効果検証から
- 25年度産米 高温耐性米へ転換加速 茨城で倍増1/7: 急ごう
- コメの民間輸入の動き 高関税でも採算あり
1/8: 国産需要の減退懸念
- 24年農産輸出 緑茶が過去最高300億円突破
1/8: 国内不足にならなければ
- 農水省 鳥インフル発生急増で警戒強化1/8: 根幹対策は
- 農水省 クマ捕獲に支援体制強化 捕獲単価引き上げ
1/9: 鳥獣被害根本から
- 農水省 オーガニックビレッジ産地に生省連携で交付金増額
1/9: 拡大期待
- 移住者数2023年度 過去最高 田園回帰の流れ継続
1/10: いいことだが
- 農水省 食料有事の増産要請の品目公表 農産物12品目畜産物も入る
1/10: 急に増産できないよ
- アイリスオーヤマ 緑茶事業に参入 国内生産工場強化1/10: 内需化
- 政府 農林水産物のインバウンド消費と食品産業の海外展開支援
1/11: 消費構造
- 米需給 ひっ迫感が過去最高1/11: 連鎖
- 24年国内農地面積2万5千ha減少 63年連続前年割れ 427万ha
1/11: 止まらず
- 総務省 11月家計調査 食料支出減少 節約指向で肉累減
1/11: 肉食べて
- 東京都 3学期から学校給食無償化実施1/13: 拡がり期待
- 福岡大・廃棄物処理業者 農業廃プラを道路アスファルト原料に
1/13: 有効利用
- 水稲 再生二期作 温暖化、米価上昇で東日本でも伸長1/15: いいね
- 企業倒産1万件超え 円安コスト高、人手不足影響1/15: 続くね
- コメ主産県 25年産増産に走る1/16: バランス
- 訪日客3600万人超えインバウンド消費8兆円超え1/16: 伸びる
- 農水省 荒廃農地25万ha4年ぶりに増加 20都県で1割超え
1/16: 増える傾向
- 米国 牛肉低関税が最速の1月消化
1/22: 実質高額関税26.4%に
- スーパー売上高 過去最高12兆円 価格値上げ貢献
1/22: 消費減退に
- 生協連 25年事業方針 食品ロス減、エシカルに注力
1/22: 反映するか
- 農水省 みえるらべる制度で畜産分野で評価法提示
1/23: フードマイレージ反映
- 24年食品輸出 1.2兆円過去最高 円安で好調 輸入10兆円
1/24: アンバランス
- 政府備蓄米 放出可能に 不足感解消 先物市場急落
1/25: 融通性ない役所かな
- 東京都 学校給食出荷農家に感謝状 全国初1/25: 都市農業振興に
- 畜安法改正案で生乳の出荷先 場当たり出荷抑制1/27:
- ドローン散布23年度 100万ha超え 機体、農業多様化
1/27: 進むね
- 農水省 酪肉近目標 牛肉・生乳は現状維持
1/29: 自給率からやる気あるのか?
- 農水省 畜産クラスター事業で 生乳需給調整が案件に
1/30: ギブ&テイク
- 農業外国人雇用24年度最多の5.8万人1/31: 必要不可欠
- 鶏卵価格300円台に 鳥インフル影響拡大1/31: 根本対策必須

東京直近NEWS(1/29 Shi-REPORT)

ホルス

市況相場はよこもち状態。
産地相対相場は飼養頭数の減少から引合い強く、素牛相場上昇と生産コストの高値安定から生産農家も収支悪化傾向から上昇基調。
販売は切落し中心にシフトしており上位部位パーツの評価が年末以降トーンダウンしており、卸しもパーツ分解販売は苦戦。量販向け次年度価格改定の動向は続いており、コスト上昇から値上げは理解も販売価格に転嫁しての牛肉離れ懸念。
次年度は明らかに出荷頭数減少予測から頭数確保の意図含めてホルスの販売政策思案中が多勢。

経産牛

北海道での出回り頭数も徐々に減少基調、本州の減少傾向は大きく道内市場産地への買参人増加情報あり。
生体輸送料も高騰しているがそれでも購入意欲高く引合い強まってきている。相場は不足感強く上昇高値維持しており、ガリ枝が割高感強い。
販売は年度替わりからやや一服感あるものの、問合せ引合いは増加傾向。現時点でチルドは荷動きやや鈍いが産地は冷凍在庫確保の動き。
挽材は慢性的な不足感が強まっており、産地も在庫逼迫から余裕なくコスト上昇積み上げた価格改定の動き。
次年度以降も減頭予測から不足感否めない。

1. 畜産技術835号(2024.12)

(研究レポート)黒毛和種雌牛の過剰排卵処置による採卵性の遺伝的改良(造田 篤、JA全農ET研)

過剰排卵処置(MO)-肺移植(ET)技術は繁殖雌牛の改良増殖手段ですが黒毛和種では肥育もと牛としての子牛生産にETが使われています。黒毛和種雌牛の採卵性の遺伝的パラメーターを推定しました。全農ET研の1,532頭の雌牛の総回収卵数(TNE)と国際学会の基準による高品質胚数(NGE)からみると黒毛和種は他の品種より採卵性が高く、両者の遺伝的関連も高く、黒毛和種の採卵性の育種改良の可能性が示されました。さらに採卵牛の採卵形質はその後代肥育牛の枝肉肉質との遺伝的関連性が低く、供卵牛の選抜は後代肥育牛の肉質には悪影響がないと思われました。

2. 畜産技術836号(2025.1)

(特集)(1)畜産分野におけるライフサイクルアセスメント 総論および社会における適用について(荻野暁史、農・食産技総研:スマート畜産施設G)

ライフサイクルアセスメント(LCA)はCO2をはじめとする温室効果ガス(GHG)排出削減効果を評価する有効な手法とされています。社会の経済活動で生産・流通・消費・廃棄に伴うGHG発生が地球環境の気候変動と温暖化をもたらしています。持続的な生産活動を維持するために必要なGHG削減にLCAが提起されました。畜産LCAも反芻家畜の消化管由来のメタン削減策のみではなく多岐に

渡ります。LCAで評価したGHG排出量(カーボンフットプリント)は産業界の脱炭素化の見える化や持続可能な生産体系構築と脱炭素経営の展開、サプライチェーンの点検やJ-クレジット制度の導入に有効に機能しています。

(2)肉用牛について(大石風人、京都大)

肉用牛生産では飼料生産と輸送、飼養管理、家畜生体、排泄物処理、等に生ずる環境負荷物質の評価にLCAが用いられています。日本の黒毛和種肥育牛生産では、肉用牛の素牛から出荷までの肥育生産と堆肥生産ではCO2,CH4,N2Oなどが温室効果ガスとして排出され、気候変動緩和技術であるアミノ酸バランス改善飼料給与で黒毛和種や乳用種の肥育牛生産において20%程度のGHG削減効果が示唆されています。さらに、近隣からのエコフィード利用は輸送段階の負荷低減に繋がります。

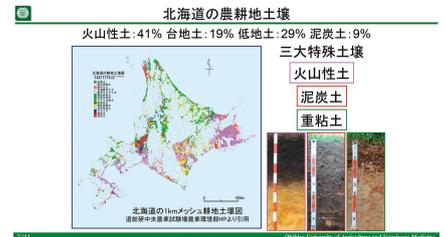
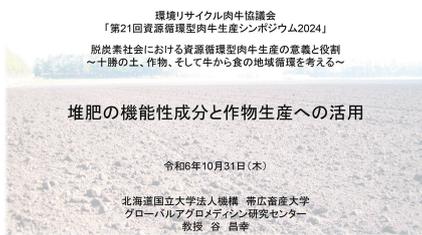
(3)草地・飼料生産(森昭憲、農・食産技総研:省力肉牛生産G)

トラクタでの農作業で子実トウモロコシ(子実)の国内生産には堆肥や化学肥料を利用すると温室効果がCO2の265倍も高いとされるN2Oが土壌から発生し、土壌の炭素貯留もありますが肥料・農薬の製造、農作業、子実の乾燥・輸送を含めてもアメリカ産の子実よりGHG発生量は10%少ないと推定され、国産、アメリカ産の子実には一長一短があり、国産子実に使う肥料製造のGHG発生量が少なくLCAの総合的評価では国産子実に優位性が示されました。

資源循環型肉牛生産シンポジウム 2024

転載・再利用は固くお断りします

基調講演「堆肥の機能性成分と作物生産への活用」5回シリーズ①
帯広畜産大学教授 谷 昌幸氏



① 土壌のリン酸吸収係数

土壌のリン酸固定力を表す指標の一つで、土壌にpH7.0の2.5%リン酸アンモニウム溶液を加えて24時間反応させた後、溶液中のリン酸濃度の減少分から土壌に保持されたリン酸量を求める。

この条件でリン酸と反応する土壌成分は、アロファン、イモゴライトなどの非晶質・準晶質粘土鉱物、腐植・アルミニウム複合体、フェリハイドライトなどの水酸鉄化合物、アルミニウム水酸化合物など

PAC	レベル
<500	非常に低い
500~1000	低い
1000~1500	中位
1500~2000	高い
>2000	非常に高い

リン酸吸収係数は0~2690 1500以上は黒ボク土

弱 ← 土壌のリン酸固定力 → 強

② 黒ボク土の特徴と肥沃度

土壌有機物: 安定化した腐植物質を多量に含むため黒色を呈する。団粒(粒状構造)が発達しやすく、保肥力や緩衝力が高い

土壌物理性: 仮比重が軽く(1未満)、膨軟で柔らかい。孔隙が多く、通気性や保水・排水性は比較的良好。ただし、風食の影響を受けやすい

土壌化学性: 含まれるコロイド成分(AI-腐植体・アロファン・イモゴライトなど)によるリン酸固定力が極めて大きい。リン酸吸収係数は1500以上。微量要素の含有量や供給力が低く、とくにカルシウム、鉄、銅、亜鉛、ホウ素など

火山灰を母材とする黒ボク土は化学性に問題が多く、肥沃度は高くはない。肥培管理技術により生産性を高めてきた

③ 十勝清水町における採草地の調査

【調査地点と調査時期】

- 清水町内の採草地70箇場で各2地点の計140地点
- 2019年度と2020年度の一番草刈り取り面積(6月中旬)

【調査内容と試料採取】

- 植生調査: 各地点で標地と草種別別被度を目視
- 収量調査: 各地点で1m²の牧草を円状に刈り取り、現地で重量を測定して生草収量を算出。普及センターにて生草試料を乾燥し、乾物率と乾草収量を算出
- 土壌採取: 牧草を刈り取った場所から、試料円筒を用いて深さ0~5cmの土壌試料を採取。1地点当たり4~5ヶ所から採取したものを混合
- 土壌分析: 風乾して篩を通した風乾土試料を調製し土壌の理化学性を畜大で分析
- 飼料分析: 乾燥した牧草試料を十勝農協畜産化学研究所で分析

④ 土壌と生草収量との関係

全地点 n=119 2100±814 kg/ha

BS20 1%未満 n=19 1502±421 kg/ha

BS20 1%以上 n=120 2182±599 kg/ha

PAC1790以上 n=47 1902±539 kg/ha

PAC1790未満 n=74 2036±594 kg/ha

pH(KCl)4.35未満 n=20 1941±478 kg/ha

pH(KCl)4.35以上 n=99 2472±468 kg/ha

T-APV38.8以上 n=11 1592±557 kg/ha

T-APV38.8未満 n=108 2412±493 kg/ha

JMPの回帰分析(regression tree)により、140地点の生草収量を目的変数、土壌分析結果を説明変数として分析 R² = 0.339

⑤ 土壌と肥料における養分の関係

作物の様々な養分(多量元素・微量元素)は土壌から供給される

【土壌診断を行って土壌の特性や養分の供給性を把握】

作物の生育に不足する養分を肥料で供給する

【北海道施肥ガイドによる施肥対応や積極的な減肥】

養分散布バイオステミナラントは作物を一時的に元気にする補助

土壌の可給養分が作物の主眼(ごはん)

肥料の適切な施用が作物の追加(おやつ)

養分散布やステミナラントは一時的な活性化剤

⑥ 良い土壌の条件

【1】作物の根張りが良い土壌

- 適度な「柔らかさ」と「硬さ」のバランス、有効土層の厚さ
- 通気性(大気中の酸素と土壌中の二酸化炭素の交換)の確保

【2】透水性と保水性が良い土壌

- 粘土や砂の割合(土性)、粘土(鉱物)の種類と特性
- 構造(粒状・垂角塊状)の発達、粗孔隙と細孔隙のバランス

【3】養分の保肥力と供給性が高い土壌

- 粘土や腐植を持つ適度な負荷電(陽イオン交換容量)
- 適切な有効養分(窒素・リン酸)、塩基飽和度と陽イオンバランス

【4】物質の可動性が高い土壌

- 溶解性有機物のキレート能、鉄や銅などの可溶化と可動化
- 土壌微生物の活発な活動と多様性の高さ